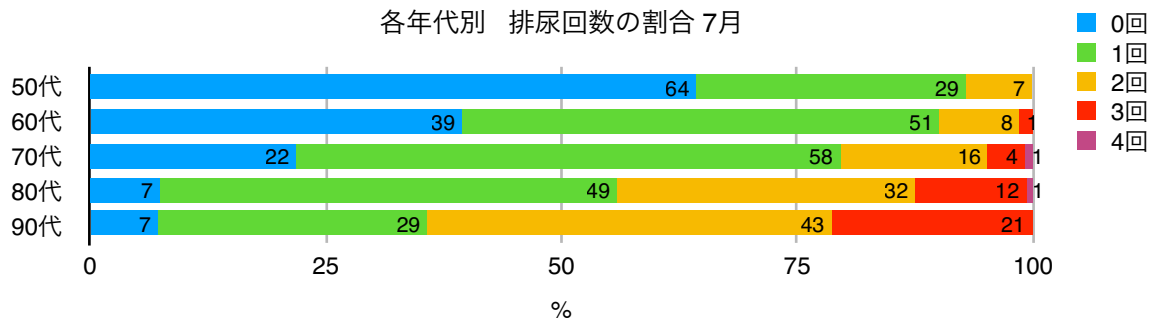


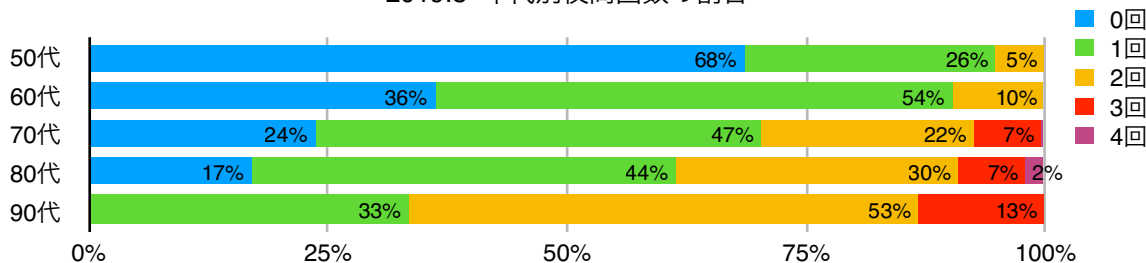
通院前立腺肥大症患者の夜間頻尿回数の追跡 都田泌尿器科医院

当院の下部尿路症状を持つ治療中の患者さんについて、夜間回数を月毎に調査しています。夜間回数の決め方は、臥床時間、中途覚醒の有無も考慮し、0.5回以内を0回、1.5回以内を1回、2.5回以内を2回、3.5回以内を3回として聞き取りしています。例えば、1回と2回が半々と答えた人は、1.5回として記録し、統計上1回とします。

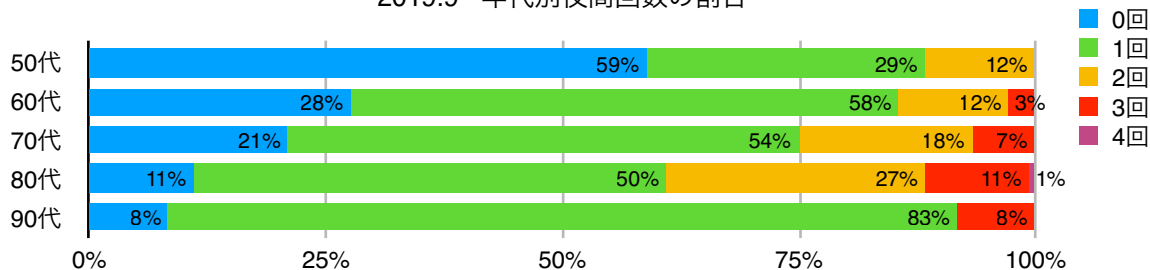
各年代別 排尿回数の割合 7月



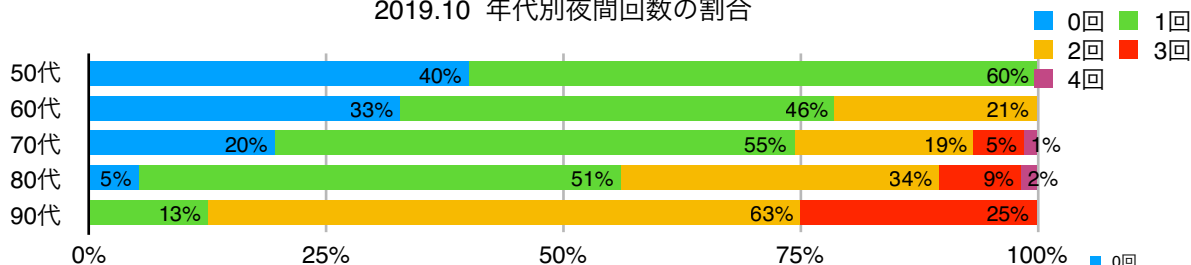
2019.8 年代別夜間回数の割合



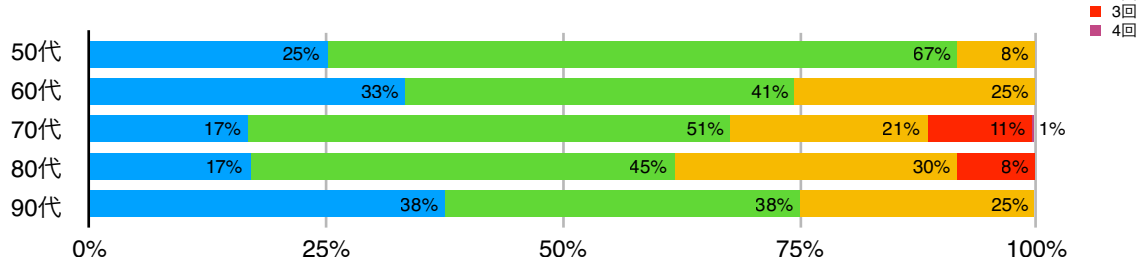
2019.9 年代別夜間回数の割合



2019.10 年代別夜間回数の割合



2019.11 年代別夜間回数の割合



とりあえず、当院の通院患者の2019年7月から11月の季節的变化を追ってみました。患者さんの通院間隔は、50%ほどが42日処方での来院です。病名はほとんどが前立腺肥大症ですが、過活動膀胱症状も含んでおり、内服治療中の症状が安定している人がほとんどです。年代別の夜間回数の割合ですが、高齢になる程回数割合が増加しており、もっとも症例数の多い70代では月の変動は1回以内が75%前後であまりみられていませんでした。

7月、8月は暑さと湿度対策で睡眠が左右されますが、寝室内の管理と過量にならない程度の水分摂取がポイントです。

9月、10月は睡眠環境が整いやすく対応のしやすさがあり、寒暖差が少なく寝やすい環境が得られるため、夜間回数も少なく安定します。

11月、12月の冷え込んだ寒暖の差がある時期には冷えによる尿量の増加が出やすくなり、夜間回数が増えやすい傾向があります。11月は60～70歳代に回数頻度は増えるようです。

なお、季節対応に敏感であるかどうか、で差がつくのだろうか？ 身体に自信のある人はついうっかり対応のなるのかも？ 最も寒い時期は意外と対応できて夜間回数は増えないのかもしれない。